

は や か ぜ 早風遺跡



はじめに

宮城県多賀城跡調査研究所では、奈良・平安時代の陸奥国府・多賀城と関連する県内の遺跡の発掘調査を継続的に実施しています。今年度は第9次5ヵ年計画の2年目にあたり、早風遺跡i地点の調査を行っています。

早風遺跡は田川の左岸、東山官衙遺跡の北～東側の丘陵上に位置します。東山官衙遺跡は、8世紀前半（約1,300年前）に造られた陸奥国賀美郡衙と推定される役所跡で平成11年に国の史跡に指定されています。政務や儀式を執り行う政庁、米を収納する正倉や実務を行う施設等で構成され、全体は築地塀で囲まれています（図2）。また、南面の段丘上には壇の越遺跡があり、東西・南北大路を基準とした街並み（方格地割）が整備されていました。

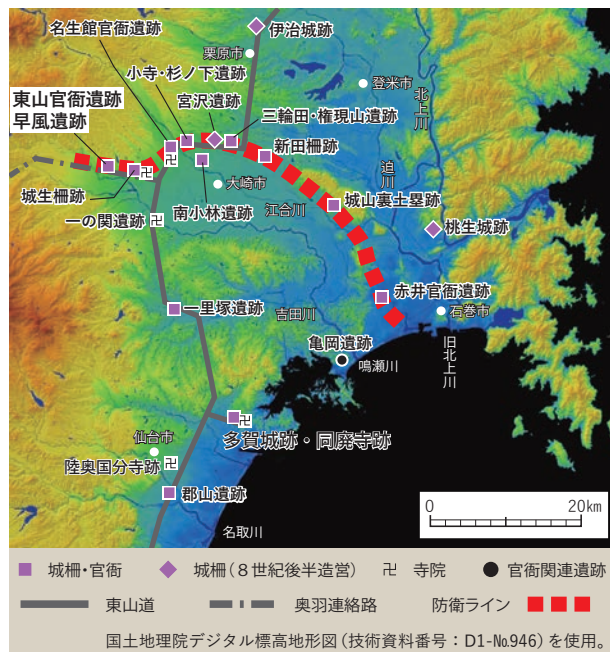
早風遺跡では、土塁状の高まりと堀状のくぼみが広範囲にわたって明瞭に認められます。これまでの発掘調査から、これらは奈良・平安時代の土塁と堀であることが判明し、壇の越遺跡の築地塀や材木塀とともに東山官衙遺跡を囲んだ大規模な防御施設であり、8世紀後半に蝦夷との緊張関係が高まったことで造られたものと考えられています。



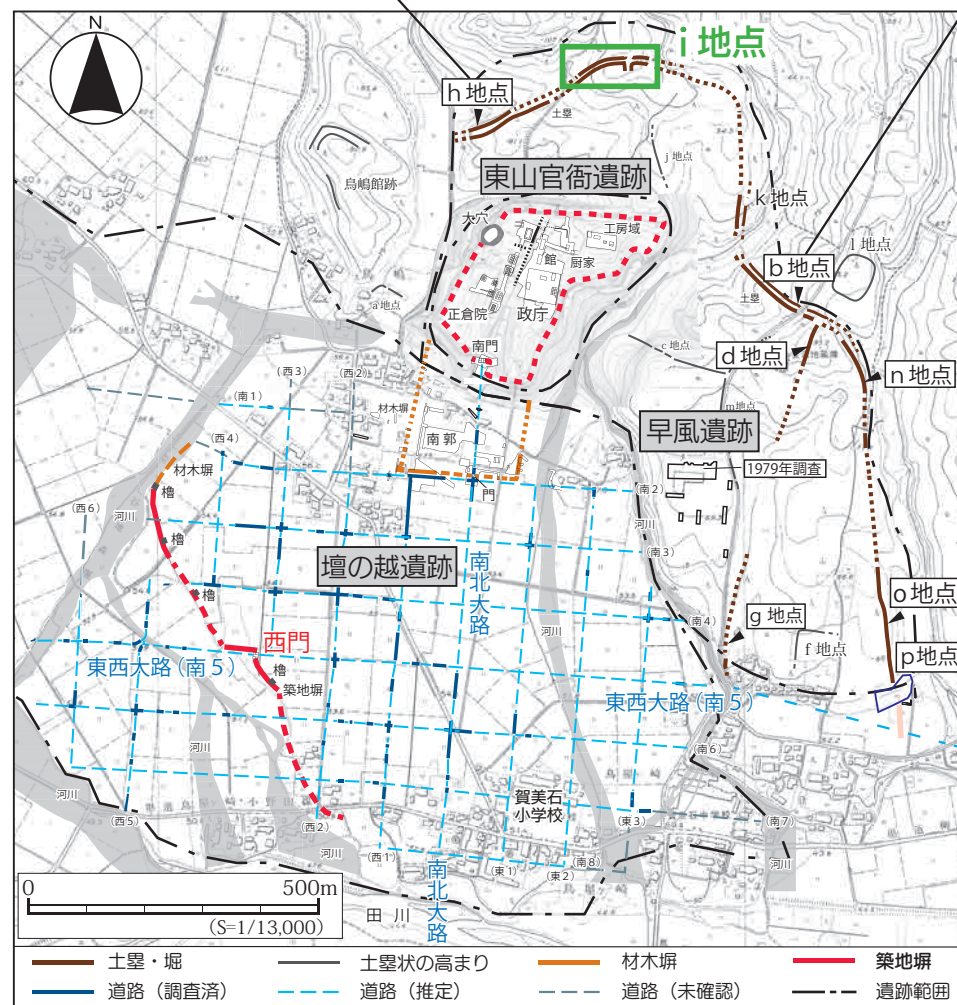
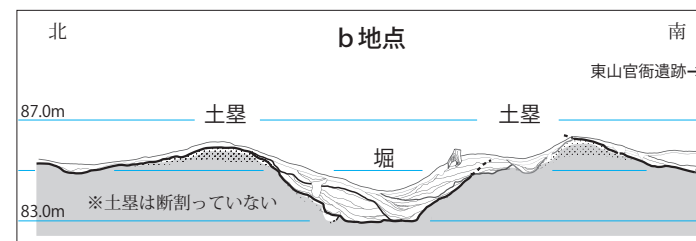
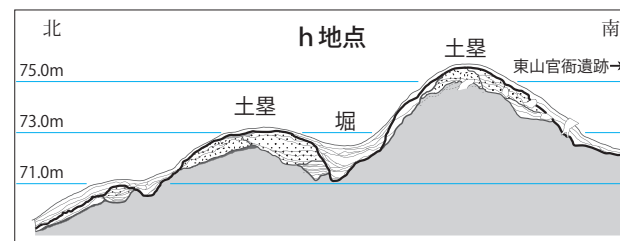
調査の目的

i地点は、遺跡北端の標高約100mの丘陵上に立地し、2条の土塁状の高まりと1条の堀状のくぼみが「十」字状に折れ曲がる様子が確認され、門などの入口施設が存在すると推定されていました（図3）。今回は、これらの規模や構造を把握すること、入口施設の位置を確認することを目的として調査を行いました。

i 地点発掘調査現地公開資料
令和7年7月3日（木）
宮城県多賀城跡調査研究所
加美町教育委員会



写真① 調査地点と東山官衙遺跡周辺（南上空から）



i 地点と隣接するh地点やb地点では、過去の調査で土塁頂部と堀底面の高低差が3mを超える大規模な防御施設が発見されているよ。

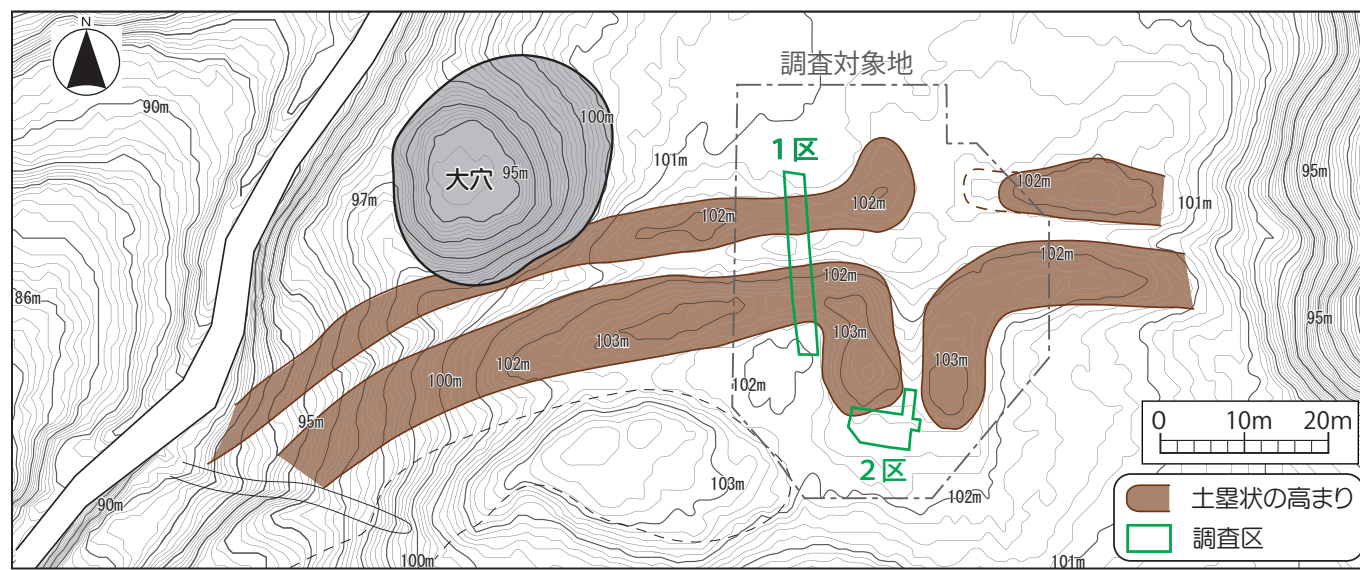


図3 早風遺跡i地点の平面概略図



調査の成果

●奈良・平安時代の防御施設（図3-1区）

i 地点の2条の土塁状の高まりとその間の堀状のくぼみの調査を行い、これらが築地塀、土塁、堀で構成される奈良・平安時代の防御施設で、全体が改修されていることを確認しました。

堀 堀 a は上幅 5 m 以上、下幅約 3.6 m で、断面形は整った逆台形です。改修後の堀 b は上幅約 4.9 m、下幅約 2.1 m で、断面形は「U」字状です。堀 b の堆積土上部に 10 世紀前半に降下した灰白色火山灰が厚さ約 30 cm 堆積していることから（写真⑤）、火山灰の降下前に造られたことがわかります。

築地塀 土を少しずつ突き固めて積み上げる「版築」工法で造られていること、壁が垂直ぎみに立ち上がる^{そえばしらあな}こと、添柱穴とみられる小穴を伴うことから、堀の南側には築地塀が造られていたと考えられます。築地塀は地山を壇状に削り出し、整地をした面に造られています。

本遺跡で築地塀が確認されたのは初めてです。

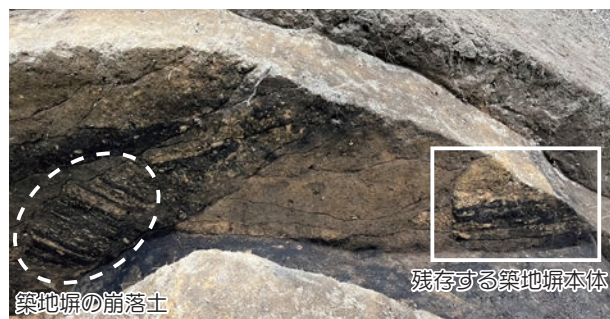
土塁 堀の北側に土を積んで土塁 1 を造っています。また、築地塀が崩れた後は、その上に土を積み上げて土塁に造り替えています（土塁 2）。

●入口施設の位置（図3-2区）

南に折れ曲がる土塁状の高まりの南側を調査し、古代の土取り穴とみられる遺構のほかに柱穴や溝を確認しました。



写真② 発見した防御施設（南東から）



写真③ 築地塀の断面（東から）

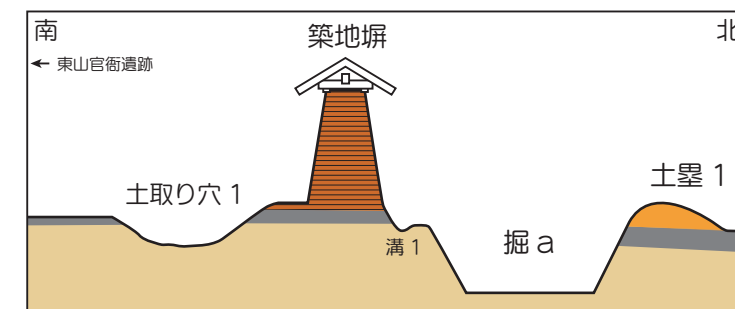
厚さ約 2～6 cm に突き固めた黄色粘土や黒色土の層が水平に積み重なっています。



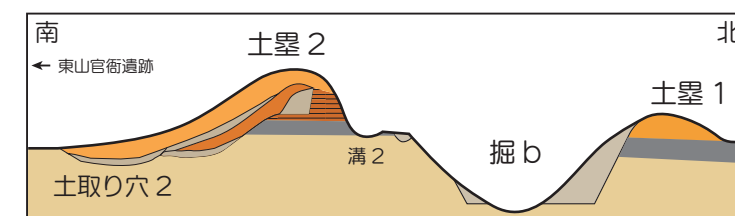
写真④ 2区全景（南から）



写真⑤ 堀と築地塀（北東から）



なだらかな地面に堀 a と土取り穴 1 を掘ります。掘り出した土で堀の南側には築地塀、北側には土塁 1 を造ります。



改修 築地塀や土塁が崩れた土で埋まった堀 a をやや南寄りに掘り直します（堀 b）。崩れた築地塀の上に、土取り穴 2 と堀 b を掘った土を積み上げて土塁 2 を造ります。

図5 防御施設のイメージ図



まとめ

- i 地点で認められる2条の土塁状の高まりとその間の堀状のくぼみが、築地塀、土塁、堀で構成される奈良・平安時代の防御施設であることを確認し、その規模や構造が明らかになりました。
- 本遺跡で築地塀が確認されたのは初めてで、周辺では東山官衙遺跡や壇の越遺跡の西門周辺などの要所に限られます（図2）。格式の高い築地塀が造られていることから、i 地点は重要性が高い地点であったと考えられます。
- 南に折れ曲がった土塁状の高まりの南側に設定した2区で、古代の柱穴や溝を確認しました。周辺に門などの入口施設が存在する可能性が考えられ、来年度以降に広い調査区を設定して調査する予定です。

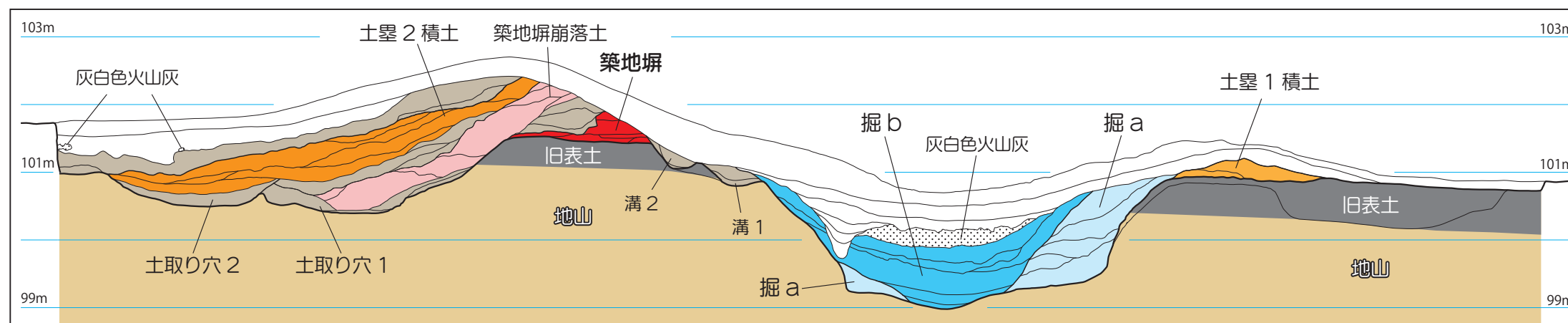


図4 1区の西壁断面図（縮尺 1/80）

調査要項

所在地：宮城県加美郡加美町鳥嶋字小清水
調査指導：多賀城跡調査研究委員会
調査主体：宮城県教育委員会（教育長 佐藤靖彦）
共催：加美町教育委員会（教育長 鎌田 稔）
調査担当：宮城県多賀城跡調査研究所
加美町教育委員会生涯学習課
調査期間：令和7年5月14日～7月下旬（予定）
調査面積：約80㎡